

第 11 回 APRU マルチハザードサマースクールを開催しました（2026/7/29-8/1）

テーマ：APRU, マルチハザードプログラム
会場：東北大学災害科学国際研究所

2026 年 7 月 29 日から 8 月 1 日にかけて、第 11 回 APRU マルチハザードサマースクールが当研究所で開催されました。中国、台湾、香港、韓国、オーストラリア、フィリピン、アメリカ、イギリス、スウェーデンなど 17 か国・地域から 50 名の大学院生や若手研究者が参加しました。開会式では、東北大学の植木俊哉理事、当研究所の越村俊一所長、APRU 事務局の Adriana Rojas シニアディレクターに開会の挨拶をいただきました。その後、村尾修教授（国際防災戦略研究分野）、ユリア・ゲルスタ准教授（災害メモリー学分野）、泉貴子教授（国際環境防災マネジメント研究分野）が講義を行いました。各講義のタイトルは以下のとおりです。

- 村尾修教授：Recovery from the 2011 Great East Japan Earthquake and Challenges for the Future
- ユリア・ゲルスタ准教授：The Great East Japan Earthquake and Multicultural Perspectives on Disaster Risk Reduction in Japan
- 泉貴子教授：Lessons from the Great East Japan Earthquake and Tsunami and International Framework for Disaster Risk Reduction

2 日目には、多賀城市危機管理課、宮城県医療的ケア児等相談支援センター、CWS ジャパン、カリフォルニア大学デービス校から講師をお招きし、ご講義いただきました。参加者は、行政の復興・防災への取り組み、インクルーシブ防災、NGO による防災の取組、AI やビッグデータを活用した防災研究・対策など、様々な観点から防災について学びました。午後のグループワークでは、参加者が各自の研究を紹介し合い、互いの研究分野について理解を深めるとともに、災害研究がいかに学際的かつ分野横断的のかについて考える機会となりました。

3 日目は AI とビッグデータを活用した災害科学や防災対策について、外部講師による講演が行われました。その後のグループワークでは、地震、洪水、山火事の 3 つの災害をテーマに、それぞれの災害に対して AI やビッグデータをどのように活用できるのか、また、その活用にあたってどのような課題があるのかについて議論しました。

4 日目の巡検では、女川町の震災遺構、シーパルピア女川、女川駅、石巻市震災遺構大川小学校・伝承館を訪問しました。女川町では新たなまちづくりについて、また、大川小学校では、犠牲となった児童のご遺族から当時の状況や経験についてお話いただき、学校における防災対策や避難訓練の重要性について改めて考える機会となりました。

APRU マルチハザードサマースクールは、来年も継続して実施される予定です。今後も、様々な国・地域からの参加者に東日本大震災の経験と教訓を伝えるとともに、災害研究や防災のあり方について国や専門分野を超えた議論を継続していきたいと考えています。

文責：泉貴子（国際環境防災マネジメント研究分野）
（次頁へつづく）



植木理事の開会の挨拶



越村所長の開会の挨拶



村尾教授の講義



ゲルスタ准教授の講義



グループワークの様子



泉教授の講義



巡検にて



巡検にて